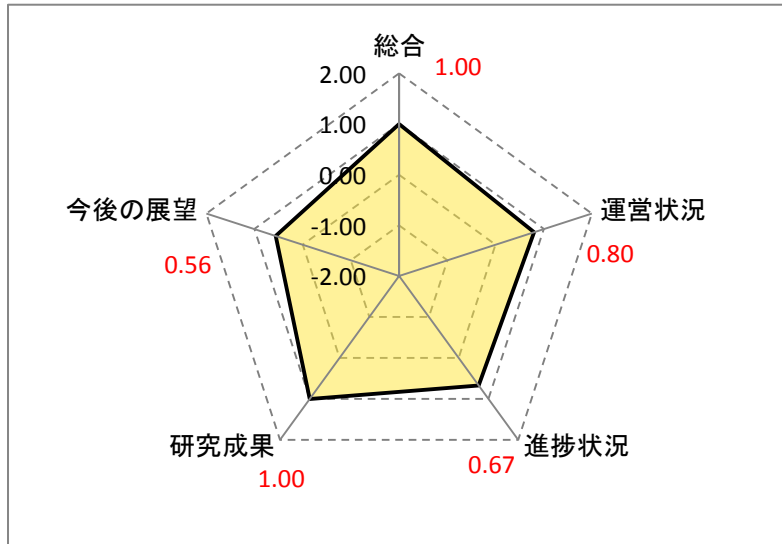


戦略的研究推進センター平成27年度研究プロジェクト評価

研究プロジェクト：萌芽研究部門 新しいヒッグス理論と初期宇宙についての研究

	総合	運営状況	進捗状況	研究成果	今後の展望	得点の平均
得点	1.00	0.80	0.67	1.00	0.56	0.81
評価	B+	B-	B-	B+	B-	B-



(評価コメント)

【総合評価からのコメント】

- ・個々としては興味深い成果を得ているが、当初目標にはもう少しという感を持つ。
- ・新たな数学的考え方、手法を取り入れてこの課題を展開するという視点からの研究は余り進んでいるように見えない。
- ・研究会や講演会を積極的に開催していて、社会貢献においても評価できる。
- ・全体として、島根県において世界的な最先端の研究を行っていることはすばらしく、今後のさらなる発展を期待したい。
- ・理論系の研究プロジェクトであるが、発表論文について、質・量ともに優れた成果を挙げたものと思われる。以上より、総合的に判断して総合評価をBとする。
- ・市民講演の他、小・中・高校生を対象とした宇宙研究・開発についての積極的なアウトリーチ活動を期待する。
- ・着実に優れた成果が得られており、連携状況も良好。
- ・このプロジェクトセンターが設立された当時の服部先生がそのまま組織に入っているが、学長としてご多忙であるので、組織の見直しが必要であったと思われる。7名の組織で論文掲載計28件は、一人当たり4件と多く、非常に高いアクティビティがあると判断される。外部資金は科研費だけであるが6件あり、一人当たり87.5万円であり、純粋にアカデミックな内容としては堅実である。目標をノーベル賞としており、極めてレベルの高い学術研究と思われる。一方で、ノーベル賞までのロードマップなどが詳細に示されるとさらに透明性が高まるものと思われる。
- ・もう少し分かり易く内容を記載して報告書を作成していただきたい。例えば報告書の達成状況の記載と発表での成果の内容が異なるように思われる。
- ・素粒子の理論の内容なのでかなり長い目で見ないと結果には結びつかないと思いますが、実験グループとの協力、情報交換を行い理論が理論だけに終わらないような発展を望みます。

【各評価項目からのコメント】

- ・役割分担がわかりづらいものの、高度な研究を内外の研究者と連携して積極的に行っていて、十分な成果をあげていることは評価に値する。
- ・メンバー間の連携が見えず、プロジェクトとしての活動とみなすべきかどうか評価できない。学長もメンバーとして記載されているが、プロジェクトにおいてどのような活動を行ったのか。
- ・国際的に注目されている独創的な萌芽プロジェクト研究であり、成果が着実に出てきている点は十分に評価できます。しかし、研究計画の達成目標が論文投稿とすると、計画の課題が多過ぎたのかもしれませんが、現時点で計画の3項目のうちの2項目が達成できていないように思われます。
- ・概ね計画にそって研究が進捗されていると思います。まったくの門外漢で失礼ですが、実験(観測)、検証との関係が大きな問題かと感じました。
- ・科研費や学術論文数など、十分な成果が得られている。
- ・論文発表数も多く、アウトリーチ活動も実施されている。
- ・多数の論文を公表していることは評価できるが、タイトル以外の詳細が不明なので、プロジェクトとしての成果とみなすべきかどうか判断できない。今後メンバー間の協働をさらに推進し、個々の研究の集積ではなく共同での外部資金獲得や成果発表につなげて欲しい。
- ・知の拠点としての島根大学の位置付けの向上が期待される。